

◆学校だより◆

Obihiro Hanazono Elementary School

はなぞの



帯広市立花園小学校

ホームページ

QRコード



令和5年12月1日

発行者 菅原優博

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて①

4月18日に第6学年児童を対象に実施した全国学力・学習状況調査の〈結果〉と〈考察〉をお知らせします。この調査結果は、本校児童の学力の一部を表していると同時に、これまで行ってきた学習活動の成果や課題を表しています。子どもたちの学力向上には、日々の授業改善と、望ましい生活習慣の定着が大切です。今後も保護者の皆様のご支援をいただきながら、学力向上に向けた取組を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

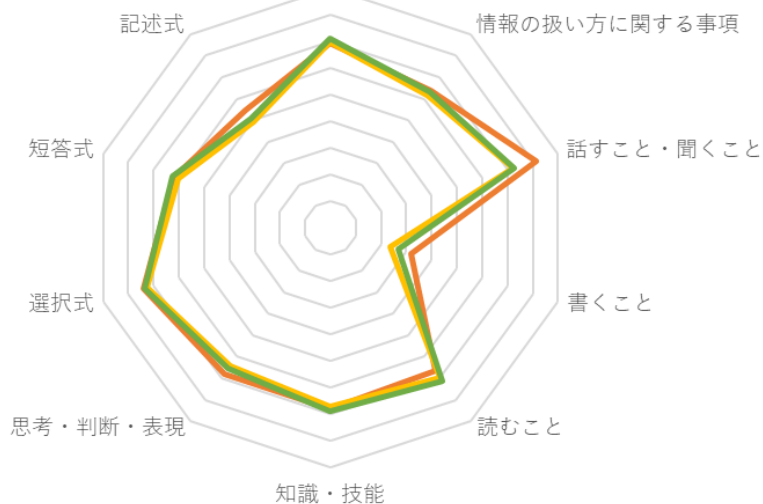
なお、本通信は、花園小学校のホームページにもカラー版で掲載いたします。

国語

国語の結果

帯広市立花園小学校 全道 全国

言葉の特徴や使い方に関する事項



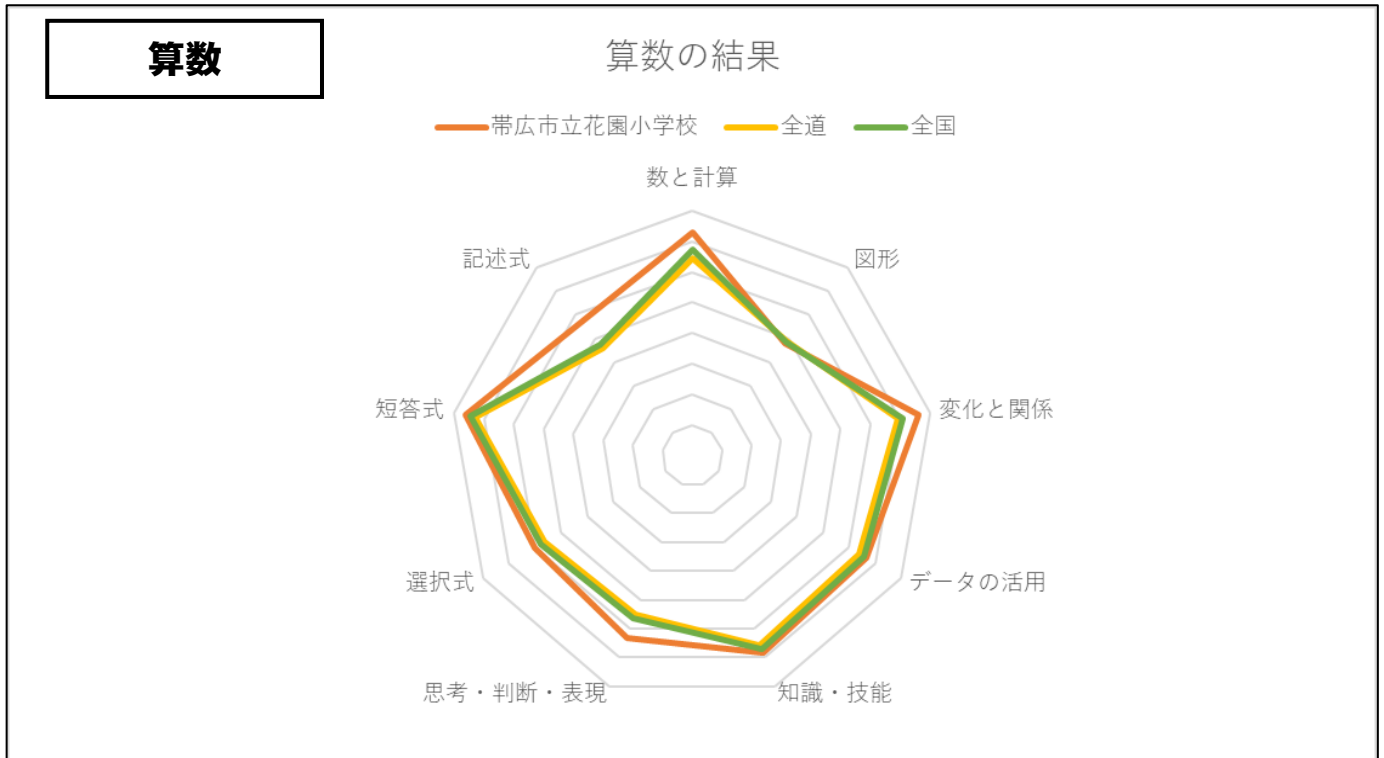
〈結果〉

全国・全道と比べて正答率の高かった問題(◎)と低かった問題(△)は次のとおりです。

- ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや、自分が聞きたいことの中心をとらえる問題(話すこと・聞くこと)。
- ◎目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題(話すこと・聞くこと)。
- ◎図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題(書くこと)。
- △目的に応じて、文章と図表などを結びつける等して、必要な情報を見つける問題(読むこと)。
- △文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題(読むこと)。

〈考察〉

「話すこと・聞くこと」の領域では全国平均を大きく上回りました。ふだんから話し手の意図や話したいことの中心をしっかりとらえ、自分の考えと比較しながら聞くことができていると考えられます。ただ、今回の結果から「読むこと」の領域の、「文章と図表などとを結び付け、必要な情報を見つけること」に、課題があることがわかりました。これは国語だけでなく、社会や理科などで社会事象や実験結果を考察する際にも必要な力です。今後も、国語だけでなく様々な学習の場面で、理解したことに基づいて自分の考えをまとめる活動を充実させていく必要があります。





〈結果〉

全国・全道と比べて正答率の高かった問題（◎）と低かった問題（△）は次のとおりです。

- ◎ 伴って変わる2つの数量が、比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて記述する問題（変化と関係）。
- ◎ 示された日常生活の場面を解釈し、少数の加法や乗法を用いて、求め方や答えを、式や言葉で記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題（数と計算）。
- ◎ 示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題（データの活用）。
- △ 正三角形の意味や性質について理解しているかを問う問題（図形）。

〈考察〉

「図形」の領域では、理解が不十分な面がありましたが、それ以外のすべての領域・観点で全国平均を上回っていたことから、一定の成果が見られたと言えます。特に「数と計算」「変化と関係」については、いずれも正答率が70%を超えるなど、理解の深さと活用力の高さがうかがえる結果となりました。また、記述式の問題でも正答率が全国平均を大きく上回り、問題に対してねばり強く丁寧に取り組んでいることがわかりました。今後も、毎日の授業や家庭学習等において基礎基本の問題にしっかりと取り組んでいくとともに、応用・発展的な問題にもチャレンジしていくことが大切です。

<p>◆学校だより◆ Obihiro Hanazono Elementary School</p> <h1>はなぞの</h1>		<p>帯広市立花園小学校 ホムページ QRコード</p>  <p>令和5年12月1日 発行者 菅原優博</p>
---	--	--

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて②

質問紙調査について

〈結果〉

学習について

- 「国語の勉強が好きだ」と考えている児童や「国語の授業の内容がよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を上回っている。
- 学習した内容について、わかった点やわからなかった点を見直し、次の学習につなげている児童の割合が全国平均を上回っている。
- 学習の中でタブレットなどのICT機器を使うのが、勉強の役に立つと感じている児童が全国平均を上回っている。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしている児童の割合が全国平均を上回っている。
- 「授業で毎日ICT機器を使っている」と回答した児童の割合が、全国平均を上回っている。
- △国語の授業で、言葉には相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいると解答した児童の割合が、全国平均を下回っている。
- △「算数の勉強が好きだ」と答えた児童、「算数の授業の内容がよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。英語でも同様の傾向が見られる。

学習習慣・生活習慣などについて

- 学校の授業以外で2時間以上勉強している児童の割合が全国平均より高い。
- 毎朝朝食をとる、決まった時刻に就寝・起床するなどの生活習慣が確立されている児童の割合が高い。
- △「読書が好きだ」と解答している児童が半数程度いるが、読書の時間は全体的に少ない傾向にある。
- △タブレットを活用して家庭学習をしている児童の割合が全国平均より低い。

自己肯定感・規範意識などについて

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考える児童が全国平均より多い。
- 自分にはよいところがあると答えた児童が全国平均より多い。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う児童が全国平均より多い。

〈考察〉

学習に対して真剣に、ねばり強く、丁寧に取り組んでいると考えられます。友達との話し合い活動等で自分の考えを深め・広げるとともに、わからなかったことをそのままにせず、しっかりと見直して次の学習につなげている様子もうかがえます。

家庭での生活リズムが整っており、家庭学習にも進んで取り組んでいます。ただ、授業ではタブレットなどのICT機器が活用されているものの、家庭で学習に使用される場面が少ないようです。タブレットのできるAIドリル（スマイルネクストドリルやeライブラリアドバンス等）を効率的に活用するとよいと思います。

また、自己肯定感や規範意識が高く、友達も自分も大切にできる気持ちが育っています。この「強み」をさらに伸ばしていけるよう、学校での学習活動や生活などあらゆる場面で対話・協働を大切にしながら、子どもたちの主体的な活動を促していきたいと考えます。

そこで・・・

学力向上に向けた取組



学校では・・・

□基礎・基本の確実な定着を目指します。

- 全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、標準学力調査などの結果分析を学校全体で行うことで課題を明確化し、授業改善に生かします。
- 習熟度別・少人数指導を充実させたり、児童の実態に応じた弱点を改善できるよう課題を工夫します。

□授業の改善・充実を目指します。

- その学習が何につながるのかという「価値」を共有したり、課題を明確につかませたり、難しい問題へのチャレンジを励ましたり、自分なりの振り返りを充実させたりするなどして、学習意欲の向上を図ります。
- 基礎・基本定着への時間の確保や1人1台端末の活用などを通して、個の力や進度に合った取組を一層進めます。
- 文章を読んで要約したり、自分の考えをまとめて書いたりして、相手と伝え合う機会を充実させます。
- 教師と子ども、子ども同士が、今以上に対話や協働を通して学びを深め広げられるよう、関わりながら学ぶことのよさを実感できるよう工夫します。

ご家庭での取り組みをお願いします。



□よりよい生活習慣・学習習慣の確立を。

- 規則正しい生活を心がけ、9時間～10時間の睡眠をとるようにしましょう。
- 学年×10分以上の家庭学習を習慣づけましょう。その日の学習をその日のうちに消化し、応用問題や発展問題に積極的に取り組みましょう。

□学ぶことの大切さを伝えるとともに、成長を見守りましょう

- 読書の時間をつくりましょう。よい本にたくさん出会うことで、読解力や豊かな想像力が身に付きます。読書をして心の世界を広げましょう。
- 学びが人をつくり、学ぶことが夢の間口を広げてくれます。学ぶことの大切さをご家庭でも伝えてください。
- 子どもの思いや考えを受け止め、たくさん関わってください。手を放しても目は放さず、目を放しても心は放さず、成長を見守ってください。



学校と家庭との連携で学力UP！